

# 令和5年度かわさき教師塾

## ☆『明日の先生日記』☆

子どもの笑顔が  
あられるまち  
かわさき



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市



「明日、子どもたちの笑顔の前に立っている私」をイメージする学び

1月20日(土)川崎市らしい特別支援教育及び日本語指導の考え方や学びに関する講義、多様な子どもへの支援の在り方に関する協議が行われ、個に応じた支援についての理解を深めました。

### 令和6年1月20日(土) 日程

- 10:00 特別支援教育
- 11:00 日本語指導が必要な子どもたちの教育
- 12:00 ~昼食・休憩~
- 12:30~12:50 「教員採用試験個別相談会」
- 13:00 個に応じた支援(グループ協議)
- 14:50 振り返り・事務連絡 15:00 終了

「学び続けること」=  
自ら「問い続けること」



先生が関わり  
のお手本に♪



あなたにとって、  
特別支援教育とは何ですか？

私は、教育をみる一つの視点・角度だと思っています。

子どもや保護者の理解  
授業づくり、学級づくりの改善、児童生徒指導  
キャリア形成、進路指導  
子どもの人権・権利、多様性の理解  
共生社会への意識

特別支援教育は、教育をみる一つの視点・角度という考え方にすごく納得できた。子どもの特性や個性をどのように伸ばしていくかという考え方が必要であると感じた。

「困った子」ではなく「困っている子」…将来、支援が必要な子どもの手立てを考え、それが少しでも役に立つことができたら、きっととてもやりがいを感じる事ができるだろうな…と思いました。

できないことに目を向けるのではなく、できていることを褒める、子どもをポジティブな見方で捉えられる教師になりたい。

説明 GW 共有 GW 助言 WS 感想

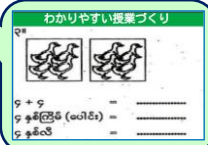


学校にはさまざまな児童生徒がいます。



### 外国につながるある児童生徒の支援・指導

- ・自信をもてるような取組み
- ・わかりやすい授業づくり
- ・あたたかな対応、あたたかなクラスづくり
- ・先生が違いや多様性を大切に
- ・他の児童生徒も成長のチャンス



絵が入ると外国籍の子や障害のある子も分かりやすい。相手の立場になって考える大切さを知った。

「多様性を楽しむ」という言葉にすごく共感しました。違いを否定から向き合うのではなく、ワクワクした心で子どもと接したいと思いました。



それが、子どもたちが多様性を楽しみ受け入れるきっかけになればと思います。

「私の見方で  
「支援」は変わる

児童の姿を捉える時結果ばかりに注目してしまいそうになるが、その子の思いや過程、背景に何が隠されているかをきちんと見ていけるようにしたい。

子どもにとって心の拠り所となるような存在になりたい。

見方を変えて子どもの問題をみる

できていないこと	<	できていること
問題が起きているとき	<	問題が起きていないとき
見る	<	聞く
子どもを変える	<	問題を変える

### 支援の手立て



- ・意図的に身体を動かすことで、特性を活かす
- ・環境づくり(刺激の統制・課題の量と配分)
- ・成体体験

「特別支援教育」自体が、日本語指導が必要な子どもや問題行動を起こす子どもたちへの支援を含め「その子が将来自立して社会参加できるようにするもの」という視点を忘れないようにしたいと思う。

昼休みに実施された3回目の教員採用試験個別相談会では、ざっくばらんな雰囲気の中、前回にも増して具体的な質疑応答が交わされました。また、同日夕方開催した「教員志望者向け説明会」にも多くの受講生が参加していました。